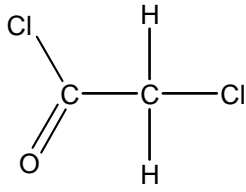


化学物質安全性(ハザード)評価シート(要約版)

整理番号	2000 - 53	官報公示 整理番号	2 - 1147(化審法) 1 - 70(化学物質管理促進法)	CAS 番号	79 - 04 - 9
名 称	クロロアセチルクロリド 別名：クロロ酢酸クロライド CAC		構 造 式		
分子式	C ₂ H ₂ Cl ₂ O		分子量	112.94	
市場で流通している商品(代表例) ¹⁾ 純 度 : 99%以上 不純物 : 不明 添加剤または安定剤 : 無添加					
物理・化学的性状データ 外 観 : 無色液体 ²⁾ 融 点 : -21.77 °C ²⁾ 沸 点 : 106 °C ¹⁾ 引 火 点 : 文献なし 発 火 点 : 文献なし 爆発限界 : 文献なし 比 重 : d ₄ ²⁰ 1.4202 ²⁾ 蒸気密度 : 3.89(空気 = 1) 蒸 気 圧 : 2.5 kPa(19mmHg)(20 °C) ²⁾ 分配係数 : log Pow ; -0.22(計算値) ³⁾ 加水分解性 : 水と反応してモノクロロ酢酸及び塩酸を生じる 解離定数 : 文献なし スペクトル : 主要マススペクトルフラグメント m/z 77(基準ピーク, 1.0)、49(0.45)、79(0.35) ⁴⁾ 吸脱着性 : 文献なし 粒度分布 : 該当せず 溶解性 : エーテル、アセトンなどの有機溶媒に可溶 ²⁾ 換算係数 : 1 ppm = 4.70 mg/m ³ (気体, 20 °C) 1 mg/m ³ = 0.213 ppm					

総合評価

1) 危険有害性の要約

ヒトでのケースレポート及び動物実験から本物質は経皮吸収性を有するとされている。本物質のヒトへの急性影響としては、眼の刺激、皮膚の紅斑及び火傷、咳、呼吸困難、チアノーゼなど呼吸器への影響のほか、消化管への影響が報告されている。また、事故例として、本物質の製造現場において皮膚に本物質の大量暴露を受け、数分後に心肺停止し、死亡した例や暴露により不整脈を起こして死亡した例が報告されている。実験動物でも眼及び呼吸器への刺激がみられ、鼻粘膜の傷害が報告されている。変異原性・遺伝毒性については *in vitro* の報告が少数あるが、いずれも陰性である。発がん性に関する報告は実験動物、ヒトともなく、IARC でも発がん性については評価されていない。生殖・発生毒性についても報告はない。

本物質に関しては、水圏での生分解データ及び濃縮性データはない。大気中では OH ラジカルの反応が関与しており、半減期は 2 年間程度と計算される。環境省のモニタリングデータはない。水圏環境生物に対する急性毒性についてはデータがない。

2) 指摘事項

- (1) 眼、皮膚及び呼吸器に対し刺激性を有する。
- (2) 大量経皮暴露で死亡した例が報告されている。
- (3) 化学物質管理促進法の第一種指定化学物質に指定されており、排出量の管理が必要である。

参考資料

- 1) (社)日本化学工業協会調査資料(2001).
- 2) Hazardous Substances Data Bank(HSDB), U.S. National Library of Medicine(1998).
- 3) KowWin(Syracuse Research Corporation).
- 4) NIST Library of 54K Compounds.